



C O R P O R A T I O N R E P O R T 2 0 1 9

Bilrite Tamura

The 12th Mid-term Plan 2019-2021 & 2024

GROWING ANEW

CORPORATE PROFILE / CSR REPORT DIGEST

Creating Value

タムラグループの事業領域



関わりの深い社会課題

- 脱炭素社会の実現
- エネルギー・資源の保全
- ダイバーシティの推進
- 働き方改革の推進
- 自然災害への備え
- 超高齢社会への対応
- 地域社会との共存

第12次中期経営計画 P.04

Bilrite Tamura

The 12th Mid-term Plan 2019-2021 & 2024

GROWING ANEW

経営理念

私たちは タムラグループの成長を支える全ての人々の幸せを育むため、世界のエレクトロニクス市場に高く評価される独自の製品・サービスをスピーディに提供していきます。



タムラグループ行動規範

SDGsの基本方針(タムラグループ行動規範)

持続可能な社会の実現とタムラグループの持続可能な発展を両立させることが、タムラグループの社会的責任(CSR)であると捉え、SDGsを社会的課題に関する世界の共通言語として認識し、SDGsがもたらす事業機会とその達成に向けて企業が果たすべき責任を理解するとともに、製品・サービス・技術と事業活動を通じて社会課題の解決に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



タムラグループの価値創造

タムラグループは事業活動を通じて、社会に貢献していくことで、企業価値を向上し、社会的課題の解決に向けて、新たな価値創造に取り組みます。

タムラの社会価値

事業を通じた価値創造

- 製品・技術・サービスの提供を通じて、
- 環境対応車の普及、安全快適な走行を支えます
 - 次世代の省エネ社会を支えます
 - 近未来のネットワーク社会を支えます

戦略市場 P.14

- ◆ 車載
- ◆ パワーエレクトロニクス
- ◆ IoT・次世代通信



価値創造を支える取り組み

Environment 環境

-
- 省エネ・CO₂排出量の削減
 - 省資源・廃棄物の削減
 - 環境負荷物質の削減

Society 社会

-
- 品質改善による顧客価値向上
 - グリーン調達・CSR調達推進
 - グローバル人材育成・ナショナルスタッフ積極登用
 - 安全な職場と適正な労働環境の整備

Governance ガバナンス

-
- 新経営体制への移行
 - コンプライアンスの強化
 - 適時適正な企業情報の開示

持続可能な社会の実現

タムラグループの持続的な成長

TAMURA CORPORATION REPORT 2019

CONTENTS

タムラグループの価値創造 01
 トップメッセージ 03

CORPORATE PROFILE

事業の系譜とコア技術 07
 事業紹介
 ■ 電子部品 09
 ■ 電子化学実装 11
 ■ 情報機器 13
 Oneタムラ戦略 14
 製品紹介 15

CSR REPORT DIGEST

CSR
 CSR目標と実績 17
 環境報告
 環境トピックス 19
 社会性報告
 社会・ガバナンストピックス 21

CORPORATE DATA

会社情報 23
 事業拠点 25

編集方針

本冊子は、グループ概要や事業を紹介した「CORPORATE PROFILE」と、CSRをダイジェストで報告する「CSR REPORT DIGEST」を1冊にまとめて、『TAMURA CORPORATION REPORT 2019』として発行するものです。なお、CSRの詳細な報告は、タムラ製作所Webサイト「CSR」のページに掲載しています。「CSR」の編集に当たっては、環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」、ISOガイダンス規格「ISO26000」を参照しました。

報告対象期間

2018年4月1日～2019年3月31日
 (一部、2019年4月以降の活動も含まれます)

発行

2019年7月(前回:2018年7月 次回:2020年7月)

お問い合わせ先

CSR推進本部
 TEL.03-3978-5293 FAX.03-3978-2760
 E-mail:csr@tamura-ss.co.jp
 Webサイト https://www.tamura-ss.co.jp/

創業100周年とその先の持続的成長に向け、
新たな経営体制で新たなスタートを切ります。



株式会社タムラ製作所
代表取締役会長

田村 直樹



株式会社タムラ製作所
代表取締役社長

浅田 昌弘

成長分野でしっかり利益を出す 企業体質を構築します。

代表取締役社長 浅田 昌弘

新社長就任にあたって

長きにわたり社長として経営トップの任を務めた田村新会長（前社長）からバトンを引き継ぎ、2019年4月より新社長に就任いたしました。その責任の重さに身の引き締まる思いですが、持ち前の現場感覚とバランス感覚を活かし、この大役を務めてまいります。

新経営体制の役割として、2024年に迫った創業100周年に向けて当社の「ありたい姿」を実現することと考えています。2021年までの第12次中期経営計画3年間で強固な経営体制を構築し、創業100周年を迎える2024年には、そこに至るまでの努力がすべて報われ、大輪の花を咲かせるというシナリオを描いています。2024年度の営業利益率は10%以上、ROE10%以上という高い目標を掲げてチャレンジしてまいります。

新体制のもと新たな中期経営計画を策定

その第一歩となる第12次中期経営計画のスローガンは、「Biltrite Tamura GROWING ANEW」としました。当社の伝統である「正しく作る」を意味する造語「Biltrite」とそれによって成長を目指す「GROWING」を今回も継続するとともに、「新元号」となった新たな時代に臨み、「新体制」で

“新たなスタートを切る”という思いを込めた「ANEW」を組み合わせたものです。

具体的には、大きな変革期を迎えている自動車産業におけるパワートレインの電動化やAI・IoTを活用した自動運転技術など、そして次世代通信の分野を今後の成長産業と見定め、「車載」「パワーエレクトロニクス」「IoT・次世代通信」の3つを当社の戦略市場としました。確実な成長が見込まれている市場でしっかり利益を上げる企業体質を構築していきます。

例えば、5Gなどの次世代通信技術なしに自動運転技術が実現できないように、今後はあらゆる分野のビジネスは相互の関連性を高めていくことが予測されています。当社でも部門間の壁を取り払って各事業のベストプラクティスを共有し、横のつながりを強化します。シナジー効果を高めながら「Oneタムラ」としてグループ一丸となって取り組んでまいります。

社会の期待に応える企業であるために

100周年とともに「ありたい姿」を実現するためには、当社の成長戦略が社会の期待と軌を一にすることが重要です。当社は2015年に国連が採択したSDGs(持続可能な開発目標)を新中期経営計画の策定基盤に活用しています。特に当社

第12次中期経営計画(2019-2021 & 2024)

Biltrite Tamura GROWING ANEW

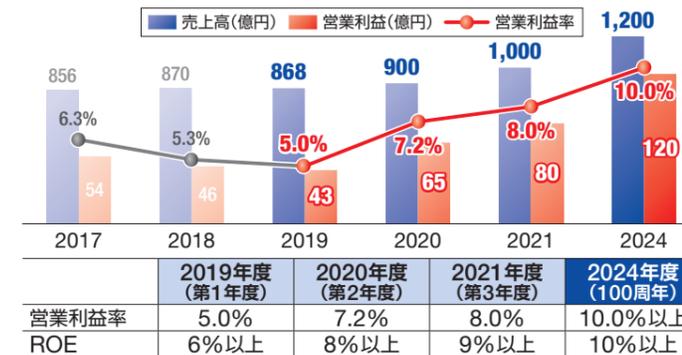
Biltrite = Build up + Right
(作る) (正しく)

ANEW = 「新たに」「改めて」

長期ビジョンとして創業100周年(2024年)とその先へ続く持続的な成長を見据えながら、2021年度をターゲットとする第12次中期経営計画を、2019年4月、新たな経営体制でスタートしました。

目標とする経営指標

- ①収益性の向上を第一として、2021年度の連結営業利益率は8%以上、100周年は10%以上を目指します。
- ②資本効率に関する目標として、2021年度のROEは9%以上、100周年は10%以上を目指します。株主資本を充実し経営基盤の安定化を推進しつつ、資本効率を高めてまいります。



事業とCSRを一体的に捉えた 経営を行っていきます。

代表取締役会長 田村 直樹



の環境貢献製品を普及させることで、世の中の期待である「エコテクノロジーによる社会的問題の解決」に応え、SDGsの目標達成に貢献してまいります。

環境側面では、成長戦略の要とする車載ビジネスにおいて、環境対応車向け製品を拡大していくとともに、「省エネ・創エネ・畜エネ」に役立つ製品で使われる電流センサーや風力や水力など再生可能エネルギーの創出に使われる大型トランスにも注力します。

社会側面では、SDGsの目標1「貧困をなくそう」にもあるように、貧困の撲滅は喫緊の社会課題であり、この課題解決

のため企業としてできる最大の貢献は雇用の促進です。当社はミャンマーやバングラデシュなどに工場を持っていますが、大学などの教育機関とも連携して技術者やマネジメント層の現地雇用を強化しています。これまでも「地開地消(現地開発・現地承認)」という国別のマーケットを重視した経営を推進してきましたが、今後はグローバル経営におけるダイバーシティを一段階高めるため、現地の優秀な人材を引き上げて徐々に責任権限を委譲し、現地採用者の取締役や執行役員を増やす考えです。

私のミッション

私は最高執行責任者として「100周年で目指す姿」を実現するため、前中期経営計画の3年目で失速してしまった業績を、新たな戦略製品の創造や、様々なチャレンジを重ねながらV字回復を目指し、スピード感のある経営を行ってまいります。

90年以上の歴史ある良き伝統を受け継ぎながら、グローバル企業であるタムラグループを、豊富な海外勤務の経験も活かしてバランスよくまとめ、「Oneタムラ」を掛け声で終わらせることなく、誰もが実感できる形に仕上げていくことが、私自身のミッションであると認識しています。皆様の忌憚のないご意見、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

100周年に向けた両輪体制

当社は2019年4月1日付で代表取締役社長の交代を行いました。社長であった私は会長に就任して、コーポレートガバナンス、CSR、SDGs、経営品質などの非財務分野を担当して企業価値の向上を図り、事業経営全般とその執行は浅田新社長に任せて、今後の成長戦略のかじ取りを担ってもらうこととしました。この両輪体制で5年後に迫った100周年に向け、全社一丸となって進んでいきたいと考えています。

第11次中期経営計画の総括

私が社長として指揮を執った最後の中期経営計画は、3年計画の1年目と2年目で過去最高益を更新するなど順調でしたが、最終年となった2018年度は米中貿易摩擦の影響と想定を超えた中国経済の減速などに直面しました。また、スマートフォンの需要が一巡して最新モデルの販売が頭打ちになるといった事業環境の悪化や、品質問題に伴う修理費用の計上という悪材料も重なり、最終的には営業利益がスタート前の水準に戻るといった結果に終わってしまいました。

3年間で収益力の向上を目標に掲げたことが功を奏し、付加価値の高い製品に資本を集中させるビジネスモデルが確立しつつあったのですが、景気に左右されない戦略製品の創出には至りませんでした。それが前中期経営計画の反省として残っています。

ただし、長年争っていた特許侵害の賠償請求において当社の主張が認められる形で解決し、その和解金が計上できたことで、最終的な当期利益は63億円と過去最高を更新しました。ROEも14.3%と二桁に飛躍し、配当も念願であった1株10円を達成することができました。

成長分野への経営資本集中と弱点の克服

この3年間は重点市場として車載ビジネスに力を入れてきました。中でも環境対応車用の昇圧リアクタは、エコカーへのシフトが進む中、性能と品質の両面で市場から評価をいただき、事業として大きく伸びました。車載関係の開発期間は長いため、前中期経営計画の売上を押し上げるには至りませんでした。第12次中期経営計画では量産の見通しが立ち、国内2か所と中国で工場設備の拡張と増強を図るための投資を決断しました。

また、電子化学事業の海外戦略ではASEAN地域と欧州に自らの生産工場を持たないことが弱点となっていましたが、OEM先であったタイの会社やドイツの現地企業をM&Aで自社工場化し、自前で生産できる体制を構築しました。

SDGsをベースに事業と社会貢献を一体的に進める

当社は、CSRという概念が日本に根づく以前から、経営理念で本業を通じた社会貢献を謳っています。国連グローバル・コンパクトにも業界では他社に先駆けて署名しました。さらに新中期経営計画では、ベースの考え方にSDGsを活用するなど事業とCSRを一体的に捉えた経営を行っています。私自身、SDGsの17目標全てが当社の活動に関係していると考えており、1つの目標ごとに「タムラでもこんな活動をしている」あるいは「こうした活動がSDGsに貢献することになる」と折に触れて発信し、全ての従業員にSDGsを身近に感じてもらえるよう取り組んでいます。例えば、当社でも働き方改革としてテレワークを導入し、家庭の事情から遠隔地勤務でシミュレーション解析を担っている社員がいますが、これもSDGsの目標8「働きがいも経済成長も」の目標達成に資する取り組みにほかなりません。

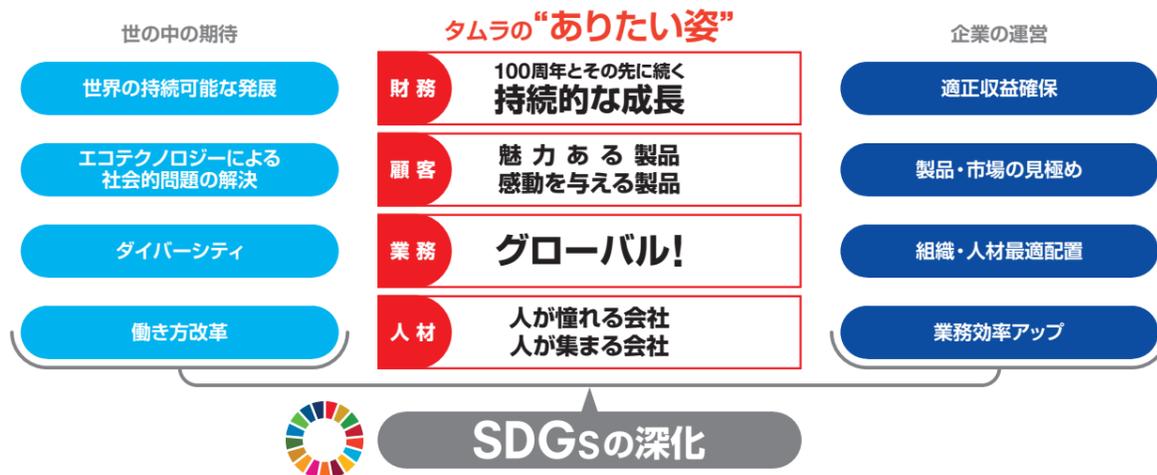
SDGsをベースに事業と社会貢献を一体的に進めることで、持続的な社会の実現と当社の持続的な成長を重ね合わせていきたいと考えています。2018年度には、SDGs全員参加の意識づけとして、SDGsバッジを全社員に配りました。ただし、まだこの取り組みは端緒に就いたばかりですので、社員に対して継続的に意識の浸透を図ってまいります。

皆様には、これまでと変わらぬご支援をいただきますようお願いいたします。



100周年で目指す姿

本中期経営計画は、国際社会の共通目標である「SDGs(持続可能な開発目標)」達成に向けた取り組みを基軸として、当社が株主、取引先、従業員、地域社会など、全てのステークホルダーに必要とされる存在として、世の中の期待に応えながら、健全に成長していくことを目指します。



脈々と輝き続ける 歴史に培われた技術力

HISTORY

日本でラジオ放送が始まる1年前の1924(大正13)年、当社の前身である「田村ラヂオ商会」が創業しました。ラジオ修理、さらにオリジナルのラジオ作りを行う中で、「良い音」の追求から、その鍵となるトランスの製作を手掛けるようになり、「トランスのタムラ」としての礎を築きました。

since 1924

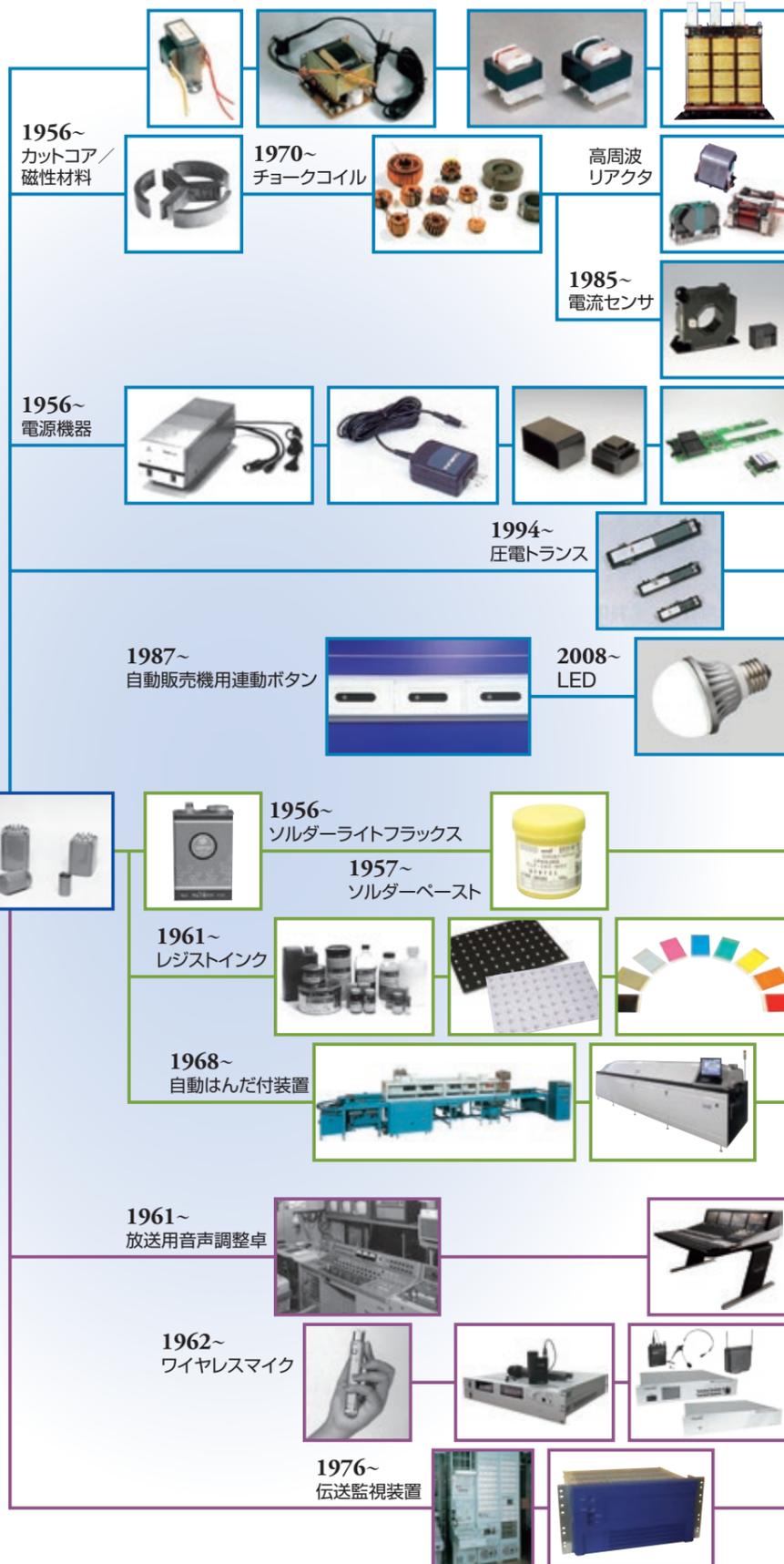


ラジオ、蓄音機の製作・販売

1930~トランスの自作化ビルトライト

その後、トランスを軸とした各種電子部品、良いトランスを作る良い接合材料への追求からフラックスやはんだ材料、はんだを接合するためのはんだ付装置、さらには放送用・通信用トランスの実績から放送用音声機器・通信機器へとその業容を広げてまいりました。

現在では、電子部品、電子化学実装、情報機器の3つの事業分野で、環境やエネルギーなど新たな市場のニーズに応える製品を開発、供給しています。



PRODUCTS

- スイッチングトランス、リアクタ、コイル (高周波製品)
- 電源トランス、リアクタ、コイル (低周波製品)
- 特殊大型トランス、リアクタ
- 電流センサ
- ACアダプタ・バッテリーチャージャ
- 電源モジュール
- 屋外LED照明用電源
- ゲートドライバモジュール
- 圧電セラミックス製品
- LED関連製品
- 自動販売機関連製品
- IoT関連製品(人感センサ/バイタルセンサ)

- ソルダーペースト
- ポストフラックス
- 導電性接合材
- ソルダーレジスト (リジッド基板用・フレキシブル基板用)
- OSP(プリフラックス)
- 白色反射材、黒色吸収材
- リフローはんだ付装置
- ウェーブはんだ付装置
- スプレーフラクサ他周辺機器

- 放送用音声調整卓
- 音声周辺機器等
- ワイヤレスインターカム
- ワイヤレスマイクロホン
- 通信ネットワーク機器
- セキュリティ関連機器
- 各種OEM製品

CORE TECHNOLOGY

- パワーソリューション**
 - ダストコア素材開発と量産化技術
 - 電磁界、熱、構造の各解析(シミュレーション)技術
 - 高効率低ノイズ電源技術
 - 大電流トランス巻線技術
 - 環境対応技術
 - 高信頼規格(JAXA・MIL規格等)適応技術
 - 大型製品量産技術
 - 特殊仕様(水冷・防水・高圧)設計技術
- 圧電セラミックス**
 - 材料開発・プロセス技術
 - 素子設計技術・解析技術
 - 圧電素子の制御技術
- LED/LD応用・IoTソリューション、半導体デバイス**
 - LEDパッケージング技術
 - 防水技術
 - 熱設計・解析技術
 - 光学設計・解析技術
 - 高効率反射処理技術
 - センシング技術
 - データ処理技術
 - 単結晶基板育成技術
 - 高品質エピ成膜技術
 - 高効率・高出力LED製造
 - 照明設計技術
 - 光学単結晶技術
 - 無線技術

- 実装プロセス/プリント配線板材料/半導体実装材料**
 - 材料と設備一体の製品開発とコラボレーション
 - 樹脂設計・合成技術 (感光性樹脂・熱硬化性樹脂・熱可塑性樹脂)
 - 金属粉末製造技術
 - 光硬化技術
 - 環境対応技術(鉛フリー化対応、ハロゲンフリー化対応)
 - シミュレーション技術(C.A.E解析)
 - 材料設計に貢献する分析技術
 - 製品品質に係る信頼性評価技術
 - リフロー加熱技術
 - ウェーブはんだ付技術
 - (窒素)雰囲気制御技術
 - はんだ接合技術
 - 熱硬化技術
 - ソルダリング技術
 - 熱制御技術

- 情報機器**
 - 音声処理技術
 - デジタル信号処理技術
 - 音響技術
 - 高周波技術
 - 無線技術
 - 高密度実装技術
 - サラウンド音響技術

電子部品

「高信頼」「高効率」のパワーテクノロジーで
パワーエレクトロニクスの未来をつくり、
安心・安全な暮らしと脱炭素社会の実現に貢献します。



事業の社会価値

- エコカーや、再生可能エネルギー、産業機器など、大電流を扱う電源システムに要求される高信頼で高効率な製品に注力しています。安全設計要求の高いエコカー向け昇圧リアクタはその性能と品質が評価されており、需要増加に応えるため生産力を増強して、エコカーの普及を支えます。
- LED関連製品では、省電力効果の高い高輝度のパワーLEDに加え、センシング技術や通信技術を応用した人感センサを開発、介護施設等で人の活動状況を見守り、暮らしの安全に寄与します。
- 幅広い分野において、搭載機器の省エネ・省資源に貢献するトランス・リアクタ・LED・電源機器・圧電セラミックス製品をグローバルに提供し、エコテクノロジーによる社会問題の解決に寄与します。



● 製品一覧



リアクタ・コイル
パワーコンディショナやエアコンディショナなどにおける電圧制御やノイズ除去のための基幹部品。省エネルギー、クリーンエネルギーに貢献します。



高周波トランス
各種電子機器の小型化、高効率化に欠かせない高周波トランス。様々な回路方式に対応可能で、電力変換における高周波化を実現し、省エネルギーに貢献します。



車載用リアクタ
ハイブリッド車・電気自動車などの電圧を最適に制御するための基幹部品。高信頼性・安全性でエコドライブを支えます。



大型トランス・リアクタ
大規模な風力・太陽光発電設備などにおいて、大型トランスは電圧変換、リアクタは電圧制御やノイズ除去のための基幹部品。再生可能エネルギーの拡大に寄与します。



宇宙トランス・リアクタ
電力系トランス・リアクタでは国内唯一のJAXA(宇宙航空研究開発機構)規格認定を取得。人工衛星や打ち上げ用ロケットで活躍しています。



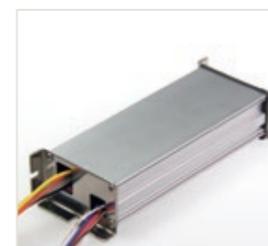
電流センサ
自然エネルギーの有効利用には、機器の電流を高精度に監視する必要があります。充実したラインナップ(電流レンジ、精度レンジ)で、省エネ・創エネ・蓄エネに貢献します。



電源モジュール
高効率DCコンバータの機能をパッケージ化しました。お客様の製品にぴったりの高性能電源(高効率・低待機・静音・小型)を、簡単に設計できます。



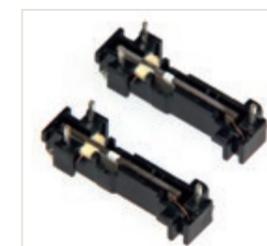
ゲートドライバモジュール
インバータなどで使用される大電力パワースイッチング半導体を駆動させる製品。低ノイズなのでIGBT、SiC-MOSFETのどちらにも対応可能。機器の設計を大幅に簡素化します。



屋外LED照明用電源
設備照明、道路照明などの屋外LED照明用電源です。高効率、高力率設計で多段調光機能を内蔵しており、業界トップレベルの省エネ照明を実現できます。



ACアダプタ
光回線終端装置(ONU)などの機器に安定した電源を供給します。雷などの外来ノイズにも強く、インターネットや電話などの通信ライフラインを支えます。



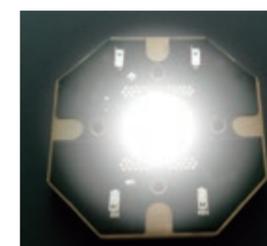
圧電トランス
圧電セラミックスの共振現象を利用し、高電圧を効率よく作り出します。レーザープリンタ、複写機、イオン発生装置などの高圧電源に使用されています。



自動販売機関連製品
シェア90%(当社調べ)を超える商品選択ボタンをはじめ、金額表示器やLED照明など主要部品を開発。価格表示内蔵のボタンは、今や自動販売機のトレンドになりました。



特殊用途LED照明
光学設計の技術を活かした内照式看板や冷蔵ショーケースなど特殊用途に最適なLED照明です。アジアを中心に海外のショーケースにも搭載が始まりました。



パワーLED
独自のパッケージング技術と放熱設計で実現した、1kWハロゲンランプ相当の高輝度LED。灯台での実証実験がスタートしました。



電子化学実装

「高信頼」「高密度実装」のはんだ接合技術を極め、
環境に配慮した材料・装置で
持続可能なエレクトロニクス産業の成長に貢献します。



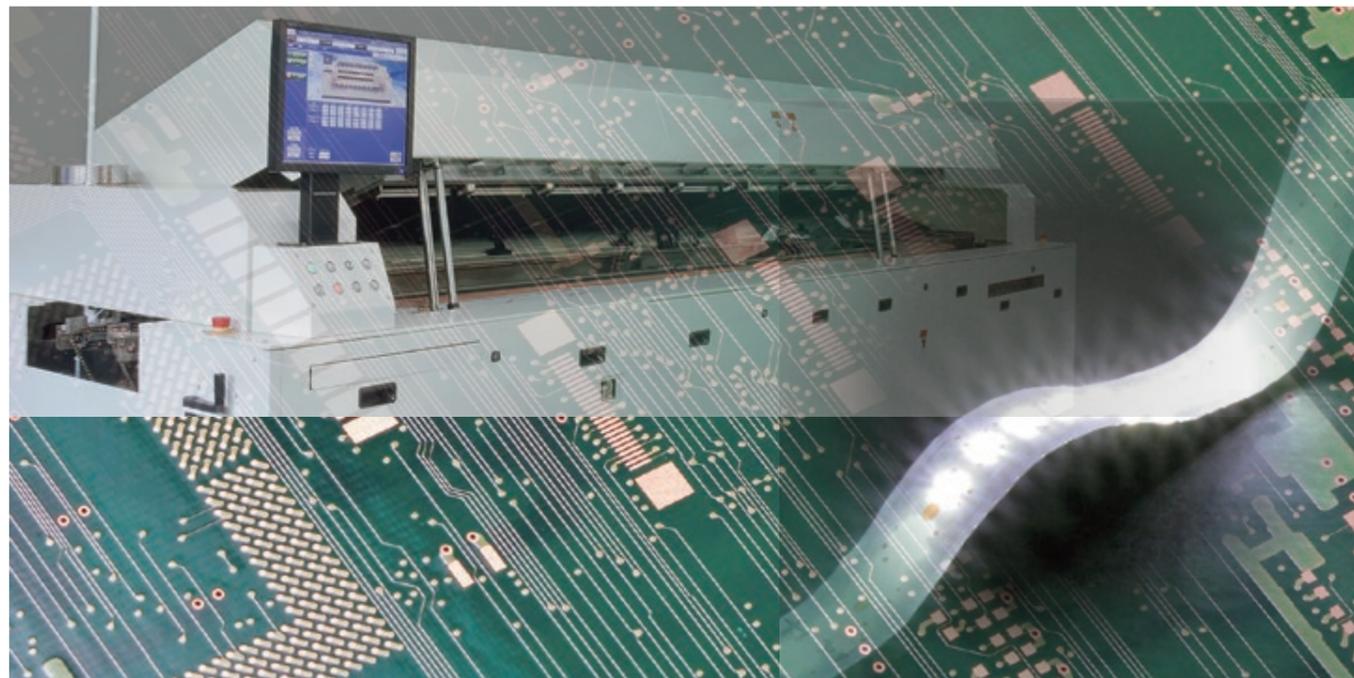
事業の社会価値

電子化学材料

● 自動車の低燃費化・高機能化に伴い車載部品の電子制御化・小型軽量化が進み、年々厳しくなる信頼性要求に応える優れた材料を提供しています。耐クラック性、耐熱性、耐湿性など、エンジンルーム内の厳しい搭載環境でも優れた性能を発揮する信頼性の高さが強みです。また、スマートフォンやウェアラブル端末など、多機能化・小型軽量化が進む機器へのさらなる高密度実装の要求や様々な接合方法に対応する材料で、5G(第5世代移動通信システム)の高速・大容量通信を支えます。

実装装置

● 自動車の電装化の進展に伴う車載用プリント基板の需要増や、「インダストリー4.0」に代表されるスマートファクトリーの進展を背景に求められる、実装機と連携性のある高性能なはんだ付装置を提供しています。省電力・省資源を実現する優れた環境性能を武器に、実装ラインの効率化を実現し、進化する世界の工場のものでづくりを支えます。



● 製品一覧



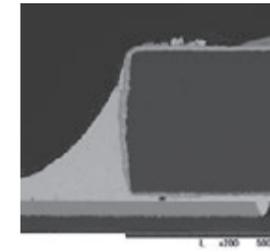
フラックス

タムラの材料開発の礎となったフラックス。はんだ付される金属面の酸化膜を化学的に除去し、はんだのぬれ性・広がり性を確保する材料です。



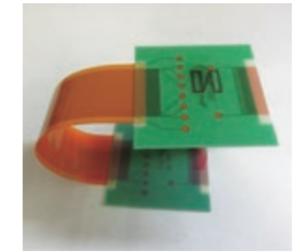
ソルダーペースト

はんだ粉末とフラックスを混合した表面実装向け接合材料。幅広い金属組成ラインナップで、微細実装用、車載用、マイクロパンブ形成用など各種用途に対応します。



高耐熱はんだ

自動車に搭載される電子機器は小型化・機電一体化により高い耐環境温度性が求められています。はんだ接合部のクラック発生を抑制し、電子機器の信頼性向上に貢献します。



導電性接合材

熱圧着プロセスを用いてフレキシブル基板とリジッド基板を低温かつ短時間で接合できる材料です。基板接続部の接合面積の縮小化と低温実装により、CO₂削減に貢献します。



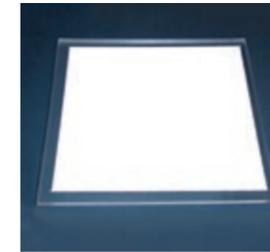
ソルダーレジスト

プリント基板を酸化から守り、絶縁性を保つ大切な役割を果たしています。プリント基板の顔であることから、外観・中身(信頼性)ともこだわります。



フレキシブル基板向けソルダーレジスト

ハロゲンフリーで豊富なカラーバリエーションに対応したフレキシブル基板向けソルダーレジストです。



白色反射材

LED基板や太陽光発電パネルの背面に塗布し、反射率を高めます。高反射率、耐変色性に優れたハロゲンフリーの高機能材料です。



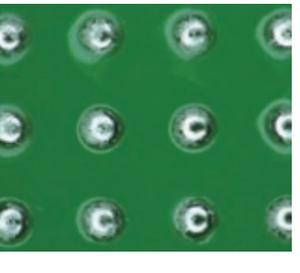
黒色吸収材

プリント配線板やフィルムの表面に塗布して、LEDの発光を際立たせます。配線を覆い隠すなど、デザイン性の要求にも応えます。



リフローはんだ付装置

プリント配線板に搭載された電子部品を加熱してはんだを溶融させ、部品と基板の回路を接合する装置。新型機では、装置内部の気体を効率的に誘導する対流制御技術を搭載し、炉内へのフラックス付着の低減、窒素消費量の低減を可能とします。



ポイントはんだ付材料

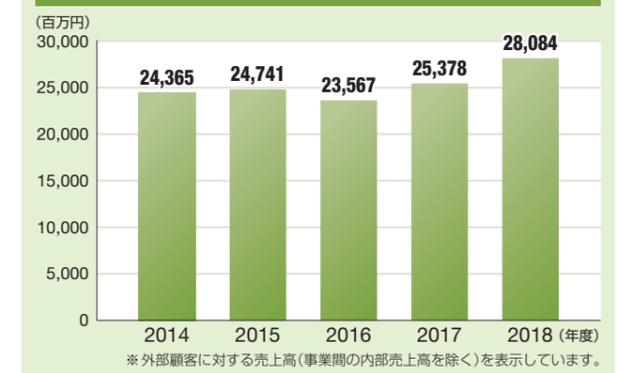
ディスペンスによる部分的なはんだ供給、レーザー等による急加熱のはんだ付に対応したソルダーペースト。従来は手はんだ付を自動化でき、かつ高品質化にも貢献できるため、カメラモジュールや車載部品分野で注目が高まっています。さらに高速、かつ立体形状へのはんだ付が可能なジェットディスペンス対応品の開発も進めています。



ポイントディップはんだ付装置

リフローはんだ付後のプリント配線板に挿入部品を搭載し、部品挿入された部分のみをはんだ槽ではんだ付接合を行います。はんだ付工程を全自動一貫ライン化することで、生産ラインの省力化実現に寄与します。

売上高の推移



情報機器

「音」を通して社会基盤の「安全・安心」の向上を図り、お客様に「価値」「感動」を提供します。



事業の社会価値

- 放送、通信分野で培った音声技術、通信技術を軸に、高解像度4K・8Kテレビ放送に対応する音声調整卓をはじめ、ワイヤレスインターカム・マイクを放送局を中心に展開、視聴者の新しい体験を生み出し快適な暮らしの実現に寄与します。
- 独自の無線技術を、人の安全を見守るための様々なシステムに応用を進めています。

製品一覧



放送用音声調整卓NTシリーズ
テレビ、ラジオ放送局などで使用される音声を調整する機器です。複数音声を効率良く調整するためにデジタルによる音声信号処理方式を採用しています。放送設備の効率化を目的としたIP化に貢献するオーディオネットワーク機能を全機種に備えています。

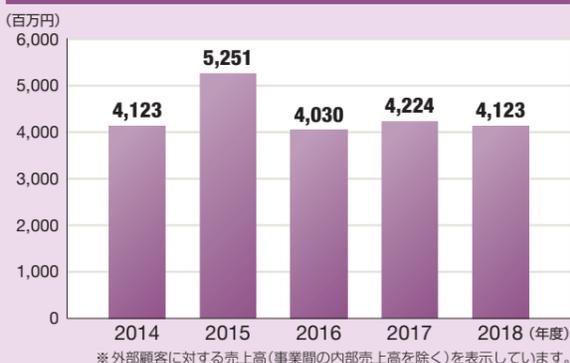


ワイヤレス機器
テレビ、ラジオ放送の番組制作で使用されています。DECTインターカムは、高圧縮な音声コーデックの採用により高音質を実現し、2グループ同時聴取など高機能ながら小型軽量。OFDMデジタルワイヤレスマイクは高音質で雑音に強い優れた電波伝搬特性を持つプロ用ワイヤレスマイクです。



TS-LINK®
TS-LINKはタムラ独自のIoT分野向け無線技術です。TDMA方式を用い無線通信の混信を避けるとともに、収容端末数を増加させるための高密度化や、端末移動にも対応した無線通信プロトコルです。大規模なイベント会場における来場者の入退管理や所在エリアの把握などへの展開を進めています。

売上高の推移



Oneタムラ戦略

タムラはそれぞれの事業分野で、卓越した製品・技術を持っています。今後大きな成長が期待される「車載」「パワーエレクトロニクス」「IoT・次世代通信」の各市場に向けて、各事業のベストプラクティスを共有し、グループの総力を挙げて取り組みます。Oneタムラの力で、「魅力ある製品・感動を与える製品」の提供を通じて新たな社会価値を生み出し、持続可能な社会の実現に貢献します。

車載



電気自動車、ハイブリッド/プラグインハイブリッド自動車などエコカーのニーズが世界的に高まり、車社会の主流となりつつあります。タムラはエコカーの燃費・環境性能をはじめ、走行性能や加速性能を高めるために欠かせない幅広い車載関連製品を提供。そのさらなる進化に挑むとともに生産体制も拡充、エコカーの性能向上や本格的な普及を、タムラの卓越した技術力で支えていきます。

- 【電子部品】**
- 昇圧リアクタ・コイル
 - 充電器用リアクタ
 - 電流センサ
- 【電子化学材料】**
- 車載用溶剤ペースト
 - 車載用溶剤レジスト
- 【実装装置】**
- 車載用リフローはんだ付装置

パワーエレクトロニクス



再生可能エネルギーの拡大と、エネルギー効率の改善は世界的な課題となっています。タムラでは、再生可能エネルギー市場に向けて、風力発電や送配電で使用される大型トランス・リアクタをグローバルに展開。また、工場、家電、交通などの分野において、エネルギー効率の改善に寄与する製品でパワーエレクトロニクスを推進していきます。

- 【電子部品】**
- 大型トランス・リアクタ
 - ゲートドライバ
 - 酸化ガリウムパワーデバイス (当ページ下部に詳細)
- 【電子化学材料】**
- パワーデバイス用無残さペースト

IoT・次世代通信

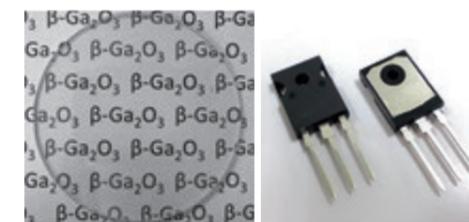


これから先、飛躍的な成長が期待されるIoT・次世代通信市場。5G(第5世代移動通信システム)スマートフォンやウェアラブル端末など、多機能化が進む電子デバイス用の化学材料をはじめ、超高画質の4K・8K映像に対応するオーディオ通信技術、高速・大容量通信が可能な新しい近距離無線技術、高齢化社会を支える見守りセンシング技術など、IoT・次世代通信の最先端を走っていきます。

- 【電子部品】**
- 自販機用金額表示器
 - 人感センサ(見守り)
- 【電子化学材料】**
- フレキシブル基板用溶剤レジスト
 - レーザーはんだ付ペースト
 - 可逆伸縮性接合材
 - 半導体用溶剤ペースト
 - 導電性接合材
- 【実装装置】**
- スマートファクトリー対応実装装置
- 【情報機器】**
- 4K・8K音声卓
 - 音声装置のネットワーク対応

酸化ガリウムパワーデバイス

タムラ製作所とノバルクリスタルテクノロジー*は、次世代パワーデバイス半導体材料の候補の一つである、酸化ガリウムの研究開発を進めています。酸化ガリウムパワーデバイスが実用化されれば、中耐圧から高耐圧領域のパワーデバイス市場において省エネルギー化への貢献が期待されます。



*ノバルクリスタルテクノロジーは、タムラ製作所からカーブアウトしたベンチャー企業であり、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の技術移転ベンチャーです。

社会・産業・暮らしを支える タムラのテクノロジー

タムラの製品は「材料」「部品」「装置」として、自動車や電子機器など身近な製品から製造現場の装置や再生可能エネルギー分野、さらには宇宙まで、様々な産業や社会インフラを支えています。素材からシステムまで、タムラのテクノロジーは人々の暮らしの安全・快適や省エネルギーの実現に貢献しています。

- 電子部品
- 電子化学実装
- 情報機器

航空・宇宙で

航空機からロケット・人工衛星まで、究極の耐環境性で社会に貢献しています。



トランス・リアクタ

灯台で

超高輝度で、高い直進性が求められる灯台の光源を省エネルギー化、長寿命化し、メンテナンス性を向上します。



パワーLED

駅で

発着案内などの情報伝達手段として、音声・表示で鉄道運行を支えます。



LED式電光掲示板

ワイヤレス
マイクロホンシステム

コンビニや店舗で

店舗サインやショーケースなど、省エネに貢献するLED光源です。



看板用LED照明

ショーケース用LED照明

街の自動販売機で

表示や商品選択だけでなく、スマートフォンとの連動など最新機能を実現します。



金額表示器

商品選択ボタン

放送局で

視聴者に届ける音声を調整する機器と、局内連絡用の無線システムです。



音声調整卓



DECT規格インターカム



OFDM
デジタルワイヤレスマイク

エコカーで

高信頼・高効率な部品・材料で、エコドライブや安心・安全を支えます。



車載用リアクタ・コイル



ソルダーレジスト



ソルダーペースト

風力・太陽光発電・インフラで

再生可能エネルギーの発電や直流送電の効率向上などに寄与する部品・材料です。



大型トランス・リアクタ



電流センサ



ゲートドライバモジュール



電源モジュール



導電性接合材



白色反射材



フラックス

工場で

ロボットや工作機械の部品、プリント配線板実装に欠かせない装置が活躍しています。



電流センサ



ゲートドライバモジュール



電源モジュール



トランス・リアクタ



はんだ付装置

家庭で

エアコンやパソコンの省エネに寄与する部品、エアコンと組み合わせて人の活動状況を見守るセンサです。



電流センサ



電源モジュール



リアクタ



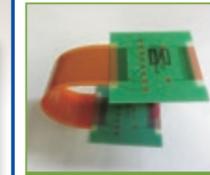
人感センサ

スマートフォンやタブレットPCで

多機能化・小型化する機器の進化を支える材料です。



フレキシブル基板向け
ソルダーレジスト



導電性接合材



黒色吸収材

東北・山形・北陸新幹線
 | MAXとき 245号 6:26 新潟 |
 | つばさ 45号 6:38 山形 |
 | あさま 503号 6:46 長野 |
 | MAXとき 675号 6:56 新潟 |

CSR目標と実績



タムラグループでは、環境・社会・ガバナンスに関連する、「環境」「人権・労働」「品質」「社会貢献」「コンプライアンス・企業倫理」「危機管理」「情報管理」分野のCSR推進に取り組んでいます。

※SDGs(持続可能な開発目標)とタムラグループの取り組みの関連性を示すため、各項目に対応するアイコンを掲載しています。

自己評価

達成率100%以上 達成率80~100% 達成率80%未満

報告ページ

冊子: TAMURA CORPORATION REPORT 2019で報告している活動を示します。
Web: <https://www.tamura-ss.co.jp/jp/csr/index.html>
一部を除いて活動全般を報告しています。

	項目	課題	2018年度目標	2018年度の主な実績	自己評価	報告ページ	2019年度目標	
環境	【環境】 6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 12 つくる責任 13 気候変動に具体的な対策を	●環境貢献製品の提供 ●環境負荷物質の抑制、削減 ●省エネルギー、省資源の推進 ●ISO14001統合認証取得の推進	●環境貢献製品の売上比率 プレミアム環境貢献製品: 12% ●環境負荷物質削減: 2005年度比原単位60%削減 ●CO ₂ 排出量の削減: 電気使用前年度比: 13%削減 ●環境法規制順守	●環境貢献製品の売上比率 プレミアム環境貢献製品: 11%【計画未達成】 ●環境負荷物質削減: 56%削減【計画未達成】 ●電気使用量の削減: 18%削減【計画達成】 ●環境法規制違反なし ●ISO14001:2015移行完了 ●内部監査員ISO14001:2015教育の実施		冊子: 19・20ページ Web: ◆環境経営 ◆環境目標および実績と評価 ◆環境貢献製品 ◆環境保全への取り組み	●環境貢献製品の売上比率 プレミアム環境貢献製品: 13% ●環境負荷物質削減: 2005年度比原単位60%削減 ●CO ₂ 排出量の削減: 電気使用前年度比: 14%削減 ●環境法規制順守	
	社会	【人権・労働】 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い雇用をみんなに 5 ジンダリティ平等を 8 働きがいも経済成長も 10 平和と公正をすべての人に	●従業員向け社内研修の充実 ●公正・公平な評価制度の確立 ●多様性の推進 ●社内コミュニケーションの活性化 ●CSR調達の推進	●グローバル人材の育成 ●適正な労務管理の整備 ●海外研修の継続実施 ●ヘルスケアの充実 ●安全衛生推進 ●女性活躍推進行動計画の実践 ●紛争鉱物対応	●人事制度のグローバル展開 ●新入社員の海外研修 ●労務管理の適正化(管理職対象) ◆労務管理研修、ストレスマネジメント研修実施 ●女性活躍推進行動計画の実践 ◆管理職向けダイバーシティ研修導入 ◆一般社員向けキャリアデザイン研修導入 ●有給休暇取得の促進(前年度比+5%) ●36協定を法規制を上回る形で改正		冊子: 21ページ Web: ◆サプライチェーンマネジメント ◆人権・労働	●グローバル人材の育成 ●適正な労務管理の整備 ●海外研修の継続実施 ●ヘルスケアの充実 ●安全衛生推進 ●女性活躍推進行動計画の実践 ●紛争鉱物対応
		【品質】 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任	●顧客満足のさらなる向上 ●グリーン調達の推進	●品質月間における品質向上啓蒙活動 ●タムラグループ品質推進大会の開催 ●グリーン調達基準の更新 ●製品含有化学物質管理の強化	●品質月間初日に品質担当執行役員からメッセージ伝達 ●第12回タムラグループ品質推進大会の開催 ●デザインレビュー実践セミナー実施、デザインレビューのレビュー研修、人為ミス防止手法講習、仕事の教え方講習を開始		Web: ◆品質・サービス ◆サプライチェーンマネジメント	●品質教育体系の整備・拡充 ●品質月間における品質向上啓蒙活動 ●タムラグループ品質推進大会の開催 ●グリーン調達基準の更新 ●製品含有化学物質管理の強化
ガバナンス	【社会貢献】 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い雇用をみんなに 15 海の豊かさを守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	●継続性のある社会貢献活動の実施 ●地域共生、ボランティア活動の実施 ●文化、芸術、スポーツ振興の実施	●各種寄付活動 ●ものづくり教室開催 ●スポーツ振興 ●インターンシップ・職場体験学習受け入れ ●地域共生、ボランティア活動の実施 ●リサイクル資源回収活動の推進	●各種寄付活動 ●ものづくり教室開催 ● Bangladeshにおけるドロッピングセンター事業支援 ●スポーツ活動支援 ◆女子サッカーチーム(ちふれASエルフェン埼玉)への協賛 ◆練馬こぶしハーフマラソン2019への協賛		冊子: 22ページ Web: ◆社会貢献活動	●各種寄付活動 ●ものづくり教室開催 ●スポーツ振興 ●インターンシップ・職場体験学習受け入れ ●地域共生、ボランティア活動の実施 ●リサイクル資源回収活動の推進	
	【コンプライアンス・企業倫理】 16 平和と公正をすべての人に	●CSRの浸透 ●法令、ルールの順守の推進 ●コンプライアンス教育の充実	●タムラグループ行動規範の見直し ●SDGsの浸透 ●コンプライアンス教育の推進	●タムラグループ行動規範に、SDGs基本方針を設定 ●CSR講演会、社内報等によるSDGsの社内浸透 ●不正競争防止法に関する集合研修 ●競争法に関する注意喚起通達		冊子: 21ページ Web: ◆タムラグループのCSR ◆コンプライアンス	●SDGs浸透の継続 ●コンプライアンス教育の推進	
	【危機管理】 11 住み続けられるまちづくりを	●危機管理の強化	●BCP(事業継続計画)文書の定期・臨時の見直し ●防災訓練の実施	●事業セグメントごとにグローバルでBCPを展開 ●国内各事業所に、避難訓練、安否確認訓練を実施		Web: ◆リスクマネジメント ◆人権・労働	●BCP文書の定期・臨時の見直し ●防災訓練の実施	
	【情報管理】 16 平和と公正をすべての人に	●情報保護の体制の強化 ●適時適切な企業情報開示の推進	●情報保護体制の強化 ●Webサイトによる適時適切な企業情報開示	●サイバー攻撃や情報漏洩防止のためのネットワークセキュリティの強化 ●Webサイトによる適時適切な企業情報開示		Web: ◆リスクマネジメント ◆IRコミュニケーション	●情報保護体制の強化 ●Webサイトによる適時適切な企業情報開示	

環境トピックス



グローバル統合認証を通じたSDGs達成への貢献

タムラグループは、2006年度よりグローバルに統一した環境マネジメントシステムを構築し、2018年度までに16社24サイトを統合し、タムラグループ全体の環境パフォーマンスの向上、環境ガバナンスの強化に取り組んでいます。

また、環境方針にSDGs(持続可能な開発)を追加し、継続的な改善活動により環境負荷の低減に取り組むとともに、持続可能な社会づくりへの貢献を目指しています。

タムラグループ環境方針

環境理念

タムラグループミッションである「私たちは、タムラグループの成長を支えるすべての人々の幸せを育むため、世界のエレクトロニクス市場に高く評価される独自の製品・サービスをスピーディに提供していきます」に基づき、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系の保護を推進し、全ての企業活動において環境との調和を図ります。

重点施策

SDGs(持続可能な開発目標)やパリ協定をはじめとするグローバル目標を認識し、事業の継続的な成長を目指して、タムラグループの事業である電子部品、電子化学材料、はんだ付装置、情報機器関連の設計・開発・製造・サービス活動において、環境マネジメントシステムを運用し、資源の有効活用、汚染の予防及び法規制等を順守すると共に、その継続的な改善を図り、次に示す環境保全活動を重点的に実施します。

1. 環境貢献製品を提供します。
2. 環境負荷物質を抑制し、削減します。
3. 省エネルギー、省資源を推進します。



プレミアム環境貢献製品の取り組み

タムラグループでは、開発・設計段階で製品環境アセスメントを実施し、環境影響の最小限化に取り組むとともに、プレミアム環境貢献製品の開発・提供を通じてSDGsへの貢献に取り組んでいます。

■ DECT規格インターカムシステム

「DECT規格インターカムシステム」は、従来の「デジタルインターカムシステム(PHS規格)」に比べ利便性の向上と大規模なシステムの構築が可能となります。

【システムの特徴】

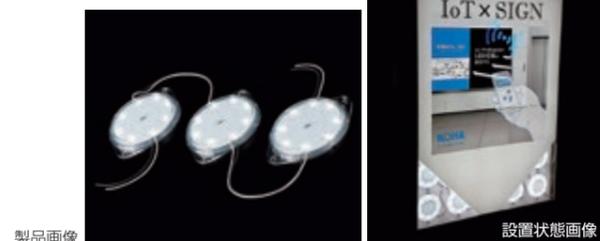
- 放送局等のスタジオでの一般的な通話グループ数は3~4グループで、それを構築する場合、従来機では、2台必要でしたが本機(MK-C96)では1台で対応可能です。

- アンテナ(MK-A96)1台当たりの子機収容台数が4→10台に増え、通信距離も3倍になったのでアンテナの設置数を大幅に削減することが可能です。
- 通信距離が短い場合は、送信電力を下げることで省電力化と他者にとって妨害となる電波の抑制を行います。



■ 超薄型看板用LEDモジュール「シャイニングソレイユ」

「シャイニングソレイユ」は、薄型片面看板用のLED光源です。両面看板用のLED光源「シャイニングアクシス」同様に、光波独自の光学設計により超薄型看板厚(30ミリ)まで対応可能な光源です。超薄型に特化したLED光源でありながら、発光ムラを抑えるため微細加工技術を用いた光学レンズを採用し、均一な発光を実現しました。既存の薄型看板厚30ミリ程度に使用されている導光板光源と比較し、重量を約60%軽減したため、搬入・設置までの省エネ・環境貢献にもつながります。

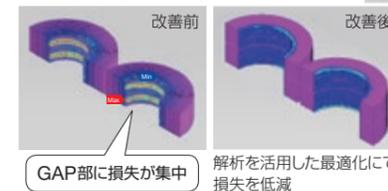


■ 共振、臨界モード用高効率・高性能高周波リアクタ

エネルギー、空調等様々な分野において共振回路や臨界モード等リアクタの損失が増大する回路が使用される事例が増えています。本製品は高周波の損失を極限まで抑えるため、コアは低損失フェライトコアを、巻線にエッジワイズを採用し高周波ロスを低減しています。さらにギャップを分割することでギャップからの漏れ磁束によるロスを低減しており、そのギャップ構成を検討するにあたり磁場解析を有効に活用しました。このようにリアクタの構造・構成を検討することにより、さらなるロス改善、省エネルギー化に貢献しています。



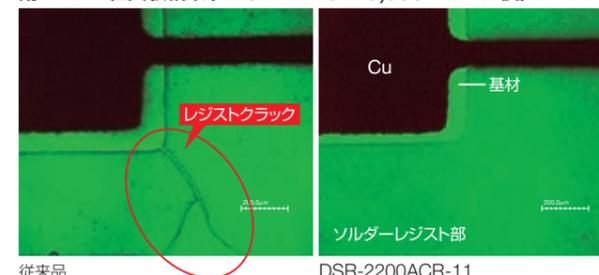
コイル損失比較(解析)



■ 車載用高信頼性・耐クラック性ソルダーレジスト「DSR-2200ACR-11」

環境対応車(ハイブリット自動車、電気自動車等)の拡大に伴い、制御に必要となる電子制御ユニット(ECU)の車1台当たりの搭載数は増加傾向にあり、省スペース、軽量化のためにはこれらECUが、より厳しい高温環境下に設置されることが想定されます。そのため、ECUに使用されるプリント基板用のソルダーレジストにも高温環境下への耐久性向上が求められます。本製品は、従来品よりも高温耐久性と低弾性特性(柔軟性)を向上させることで、高温環境を想定した-40℃⇔+125℃の冷熱サイクル試験において、ソルダーレジスト中のクラック発生を大幅に抑制し、従来品と比較して20倍以上のサイクル数寿命を達成しました(当社試験基板評価結果)。また、柔軟性に優れることから湾曲させて搭載が想定される基板(リジッドフレキシ基板)にも適用可能であり、曲げて搭載することでの省スペース化にも貢献するハロゲンフリー対応品です。

耐クラック性試験結果(-40℃⇔125℃ 3,000サイクル後)



■ 省エネルギーTNVシリーズのVersion UPモデル「TNV-Ver.Ⅲ」

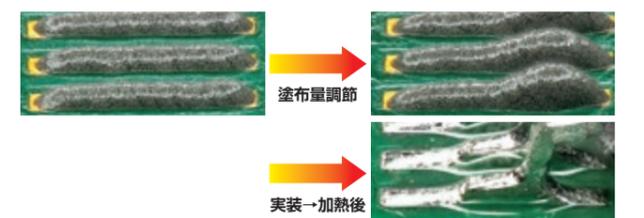
省エネルギーTNVシリーズのVersion UPモデル、「TNV-Ver.Ⅲ」。今回の新製品では、装置内部の気体を効率的に誘導する対流制御技術を搭載しました。その結果、炉内へのフラックス付着の低減による清掃頻度低減、窒素消費量の低減が可能となりました。清掃周期を伸ばすことで、顧客における生産効率の向上、窒素消費量低減による省エネルギー化、清掃頻度低減による省資源化が実現します。



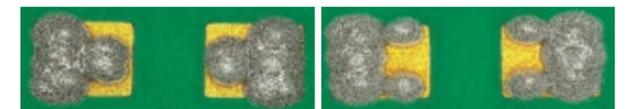
■ ジェット対応Pbフリーソルダーペースト「JDS204F-MJ21-HF」「JDS204G-MJ21-HF」

本製品は、Pbフリーに代表されるSAC305のはんだ組成を使用し、かつ、JPCA-ES01規格で定められた「ハロゲンフリー」に対応しています。既存の印刷工法では位置合わせの難しいFPC基板、従来の印刷機では印刷難度の非常に高いキャビティを有する基板や立体的な基板へのはんだ供給といった用途において、非接触のはんだ塗布工法としてジェットディスペンス工法導入の検討が進められています。

現在「JDSシリーズ」は、塗布径に合わせて2種類のソルダーペーストを製品ラインナップ化し、ジェットディスペンスにおける吐出安定性と飛び散り(サテライト)低減に対応します。非接触/マスクレスの工法のため、従来の工法では必須であったマスク洗浄工程も削減できるため、製品、工法の両面で環境に配慮された製品です。次世代顧客のニーズ、高まる環境配慮に対応する製品として貢献します。



マスクレスのためはんだ塗布形状の調整が自由自在



社会・ガバナンストピックス



SDGsへの取り組み

タムラグループは、2015年に国連総会で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)を社会から求められる重要な課題と捉え、SDGsの考え方を経営に統合し取り組みを進めています。

■基本方針の設定

「タムラグループ行動規範」を改定し、SDGsをグループ全体で取り組むべき課題と位置づけ、その基本方針を定めました。(01ページ)さらにサステナビリティ戦略を掲げ、2019年4月からスタートした第12次中期経営計画にSDGsを組み込んで推進しています。

サステナビリティ戦略

- **社会課題解決による事業成長**
各事業の持つコアコンピタンスに磨きをかけ、社会課題の解決につながる製品・ソリューションの開発・提供を行います。
- **脱炭素社会の実現への貢献**
事業活動の省エネ推進・CO₂削減に取り組めます。
- **非財務情報の開示**
ステークホルダーの情報ニーズに適切に対応し、企業価値の向上を図ります。

■社内浸透

グループ全従業員がSDGsを自分ごととして理解し、取り組んでいくために、2018年度より様々な社内浸透策を推進しています。

◆SDGs講演会

企業価値を高めるための理論と実践分野においてのトップランナーである外部講師を招き、SDGs講演会を実施しました。株式会社伊藤園顧問(当時)の笹谷秀光氏には「SDGsと経営の統合」について、損保ジャパン日本興亜株式会社CSRシニア・アドバイザーの関正雄氏には「ビジネスにおけるSDGsの実践」についてのご講演をいただきました。関連会社含め役員・管理職が多数聴講し、SDGsへの理解を深めました。



◆社内報

2018年10月号より連載を開始し、継続的に啓蒙に取り組んでいます。海外拠点には翻訳版を配信しています。



◆SDGsバッジ・名刺

SDGsを意識して業務に取り組む、社外のステークホルダーに当社がSDGsの主旨に賛同し、積極的に取り組んでいることを表明するために、従業員にSDGsバッジを配付し、名刺にはSDGsのロゴマークを掲載しています。



働き方改革への取り組み

働き甲斐の向上と適正な労務管理を両立させるとともに、コミュニケーションを大切にする組織体制を築くことにより、ストレスが少なく快適に仕事に専念できる風土づくりに取り組んでいます。また、ダイバーシティと多様なライフスタイルに対応できる体制を整備し、性別・国籍にかかわらず誰もが安心して、長い期間、仕事を続けられる職場環境づくりを目指します。特に「女性活躍の推進」については一層のポジティブアクションに取り組んでいます。

- 2018年度は新たに、以下の2つの研修を開始しました。
- 管理職を対象に、女性活躍指針を含む、ダイバーシティ全般の推進に向けての考え方、行動、マネジメントについて学ぶ研修
 - 一般社員を対象に、様々なライフイベントを考慮した自分なりの将来キャリアをデザインし、自らの行動計画を立て、実行し、継続して活躍するための基礎を築く研修
- 全事業所の管理職を対象とした、労務管理研修およびストレスマネジメント研修も継続的に実施しております。

タムラ製作所では、今後も、コンプライアンスに基づく労務管理の徹底とストレスの少ない職場環境の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

赤谷プロジェクト*活動への参画

タムラ製作所は、(公財)日本自然保護協会の会員企業として、生物多様性の復元に取り組む「赤谷プロジェクト」を支援するため、プロジェクトの活動地「赤谷の森」の麓にある当社の保養所および研修施設を提供しています。2018年11月にはタムラ製作所およびグループ会社の従業員有志が、人工林から自然林への復元を目指す取り組みの一環として除伐作業のボランティアに参加しました。



*赤谷プロジェクト：群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる、約1万ヘクタール(10km四方)の国有林「赤谷の森」を対象に、地域住民で組織する「赤谷プロジェクト地域協議会」、林野庁関東森林管理局、日本自然保護協会の3つの中核団体が協働して、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを進める取り組み。

ものづくり教室

未来を担う次の世代に「ものづくり」の素晴らしさを伝えるために、2008年より毎年ものづくり教室を開催し、従業員が子供たちにAMラジオなどの製作を指導しています。2018年度もタムラ製作所、若柳タムラ製作所、会津タムラ製作所で開催し、好評を博しました。



① タムラ製作所坂戸事業所
② 若柳タムラ製作所
③ 会津タムラ製作所

自衛消防訓練審査会 優勝

タムラグループでは、火災発生の際の被害を最小限にとどめるため、消防法適用の各事業所に自衛消防隊を編成しています。東京事業所では消火栓を扱う訓練を積んだ従業員が、毎年地域の自衛消防訓練審査会に出場し、2018年度は1号消火栓操法の部で優勝しました。



坂戸事業所新棟における取り組み

電子部品関連事業の事業再編にあたり、その中核拠点である坂戸事業所(埼玉県)を建て替え、2018年9月より運用を開始しました。「環境と人にやさしい」をコンセプトに、大幅な省エネの実現による環境負荷低減と、働きやすく快適な職場環境づくりを目指した持続可能なオフィス棟です。耐震性も強化、災害時にも少ないエネルギー消費で事業運用が可能で、BCP(事業継続計画)にも寄与しています。



■Nearly ZEBとして認定された環境棟

2017年度ネット・ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)実証事業において、建物のエネルギー消費量と、創エネによるエネルギー供給量の合計で正味75%以上の省エネを達成するNearly ZEBとして認定されています。

ZEB実現のための取り組み事項

- 高性能の断熱材、高性能サッシを採用
- 高効率ビルマルチ空調、全熱交換機、自動調光LEDを採用
- 太陽光パネルで創エネ、運用はBEMSを利用し省エネ

■埼玉県「彩の国工場」に指定

坂戸事業所は新棟のZEB認定をはじめ、工場見学の受け入れや「ものづくり教室」など、地域での社会貢献活動が評価され、埼玉県の2018年度「彩の国工場」に指定されました。



VOICE

プロジェクト担当者の声

人事総務本部 坂戸総務G

清水 俊一

ZEBはタムラで初めての試みで全てが手探りでしたが、無事に新棟のNearly ZEB認定を取得できました。ここをゴールとせず、さらなる省エネに取り組めます。「環境と人にやさしい」はまだこれからです。

会社概要

会社名 株式会社タムラ製作所
TAMURA CORPORATION

創業 1924年 5月11日

設立 1939年11月21日

資本金 11,829百万円

株式 (2019年3月31日現在)
発行可能株式総数 252,000,000株
発行済株式の総数 82,042,757株
(自己株式728,716株を除く)
決算期 年1回 3月31日
株主数 11,774名

役員 (2019年6月26日現在)

代表取締役会長 田村 直樹

代表取締役社長 浅田 昌弘

取締役常務執行役員 橋口 裕作

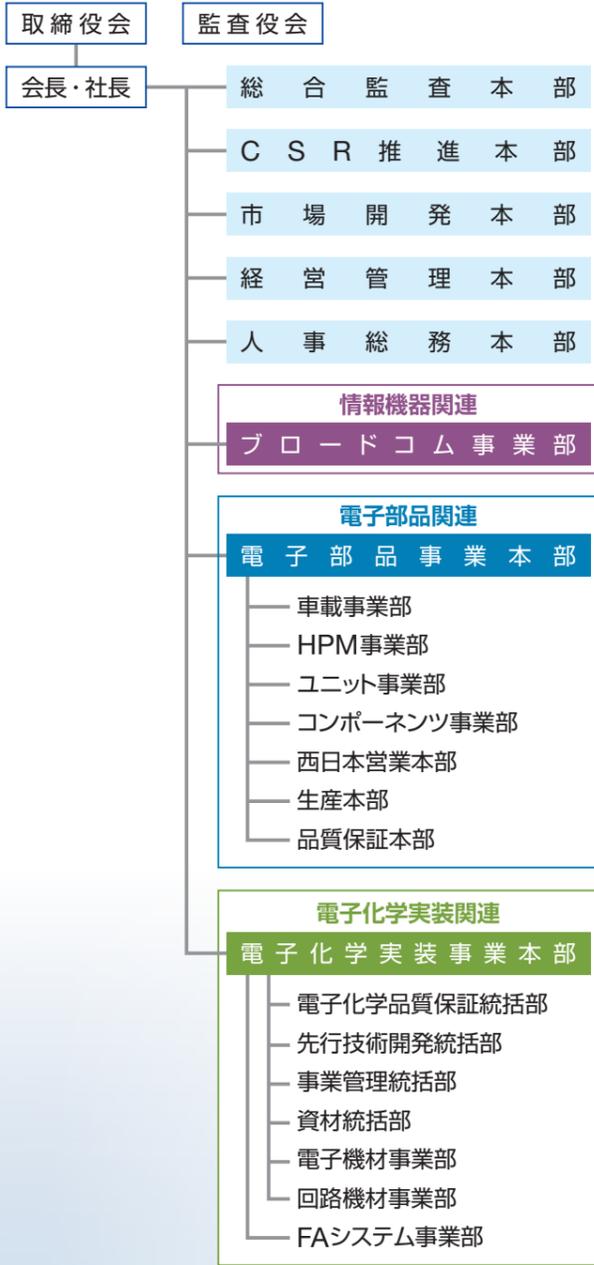
取締役(社外) 蓑宮 武夫
窪田 明
茨村 晴子

取締役上席執行役員 南條 紀彦
齋藤 彰一

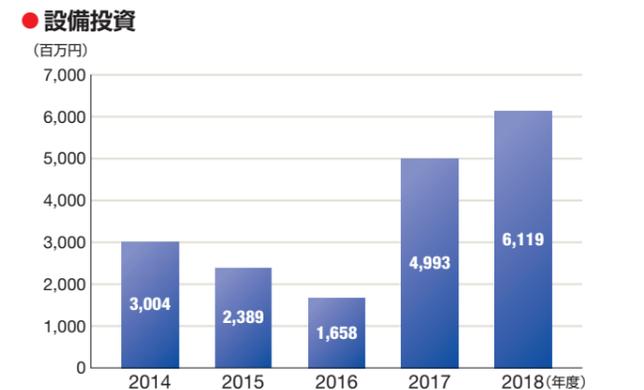
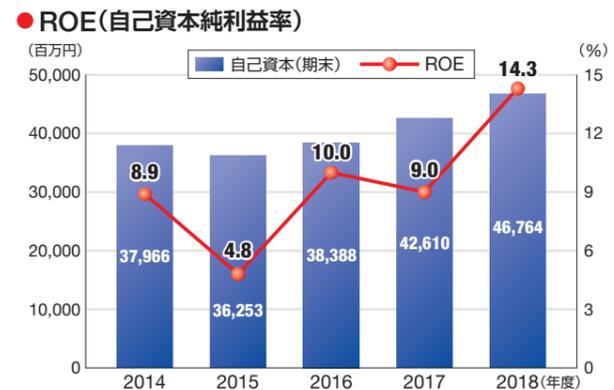
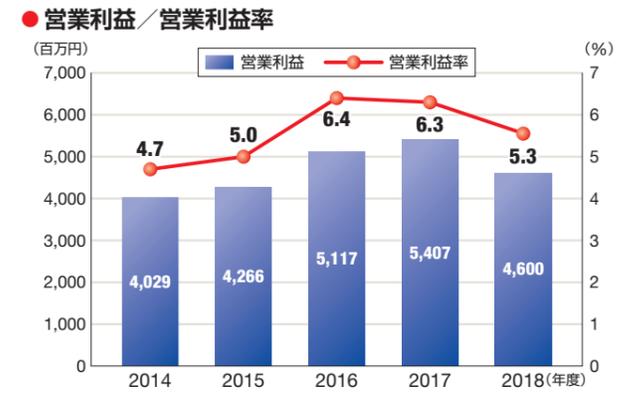
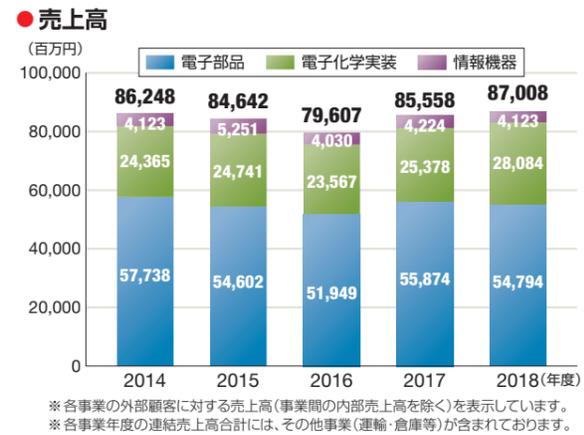
常勤監査役 久保 肇

監査役(社外) 守屋 宏一
戸田 厚司

組織図 (2019年4月1日現在)



主要財務情報(連結)



EUROPE

- イギリス・チェコ ■ タムラ・ヨーロッパ・リミテッド
- ドイツ ■ タムラエルソルド有限会社
- イタリア ■ タムラマグネティックエンジニアリング有限会社

ASIA

- 韓国 ■ タムラ化学韓国株式会社
- 株式会社韓国タムラ
- タムラプロフェッショナルソリューションコリア株式会社
- 中国 ■ 田村(中国)企業管理有限公司
- 上海祥泰田村電化工業有限公司
- 田村自動化系統(蘇州)有限公司
- 田村精工電子(常熟)有限公司
- 田村電子材料(天津)有限公司
- 合肥博微田村電氣有限公司
- 田村化研(東莞)有限公司
- 田村電子(深圳)有限公司
- 田村電子(惠州)有限公司
- 香港 ■ 田村香港有限公司
- 台湾 ■ 台湾田村科技股份有限公司
- タイ ■ タムラタイランド株式会社
- イーエスイー・インダストリーズ(タイ)株式会社
- マレーシア ■ タムラ電子(マレーシア)株式会社
- タムラ化研(マレーシア)株式会社
- シンガポール ■ タムラシンガポール株式会社
- ベトナム ■ タムラベトナム有限会社
- バングラデシュ ■ オブシード・バングラデシュ・リミテッド
- ミャンマー ■ アースタムラエレクトロニック(ミャンマー)株式会社
- インド ■ タムラ・エルコンポニクス・テクノロジーズ

■ 坂戸事業所 建て替え

坂戸事業所(埼玉県坂戸市)を建て替え、2018年10月より新棟の運用を開始しました。また車載関連、および航空・宇宙関連の生産を若柳タムラ製作所に移管を行い、電子部品関連事業の業務最適配置を進めています。

坂戸事業所は、電子部品関連事業の生産・開発・販売のコア拠点として1980年に開設されましたが、その後生産機能は国内外のグループ会社へ移管が進み、また一方で、製品開発やマーケティングの中核拠点としての役割は重要度が増しています。

新棟は、コンパクトな建物の中に今後の坂戸事業所に期待される役割に最適なレイアウトを実現するとともに、省エネビルとして「Nearly ZEB」に認定され、運用しています。(詳細は22ページ)



■ 若柳タムラ製作所 新工場

若柳タムラ製作所(宮城県栗原市)にハイブリッド車・プラグインハイブリッド車・電気自動車などに使用される「環境車向け昇圧リアクタ」の需要拡大対応として、新工場を設立、2018年10月に落成しました。2019年度下期より量産開始、さらなる生産能力拡大のための投資も予定しています。

若柳タムラ製作所は、小型トランスの生産工場として1966年に設立、その後生産品目を変遷させながら、現在では電子部品事業の中核工場として重要な役割を担っています。2011年3月の東日本大震災では大きな被害を受けましたが、従業員一丸となり復旧に取り組み、事業再開を果たしました。

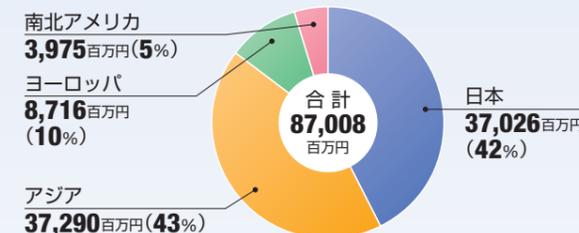


AMERICAS

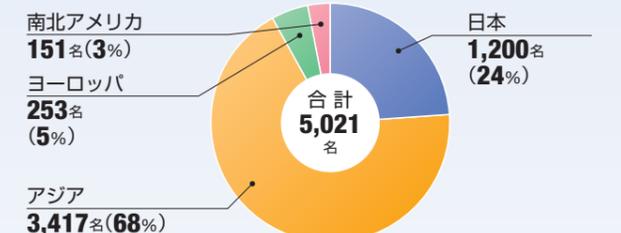
- アメリカ ■ タムラ・コーポレーション・オブ・アメリカ
- タムラ化研(アメリカ)株式会社
- メキシコ ■ タムラ電子(メキシコ)株式会社
- ブラジル ■ テレパート・タムラ
- インドサル・エムジー
- インドサル・エスシー



● 地域別売上構成(連結) (2018年度)



● 地域別従業員構成(連結) (2019年3月31日現在)





コミュニケーション・オン・
プロGRESS

国連グローバル・コンパクトの原則の実践
状況および国連の様々な目標の支持につい
て、この**コミュニケーション・オン・プロGRESS**
を通じて報告しています。

内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。



タムラグループマスコット
“クーニュ Quenu”

株式会社タムラ製作所

TAMURA CORPORATION

<https://www.tamura-ss.co.jp/>

〒178-8511 東京都練馬区東大泉1-19-43